

ツール 46：市民陪審

このツールの目的

より大きな意思決定プロセスに一般市民を関与させる。

このツールを使うタイミング

収束フェーズで、どのアイデアがうまく行きそうかについて決定しなければならないタイミング。また、このツールは、特定のステークホルダーとの間での共創が困難な場合にも使用できる。

市民陪審とは

市民陪審とは、より大きな意思決定プロセスに、一般市民の声を反映させるための意思決定ツールだ。このツールは、公共の観点で重要な課題について深く検討し、意思決定を行うため、無作為に選ばれ、人口統計学的にバランスのとれた複数の一般市民で構成される「陪審団」を集めて行われる。

市民陪審は、意思決定の質を高め、政策策定と実行の正当性、有効性、効率性、持続可能性を向上させるために開発されたツールだ。このツールは一般的に、戦略策定、サービスの優先順位付け、技術的選択のために用いられる。

このツールは、サーベイのような他の調査・広聴ツールと並行して使うこともできる。特定のステークホルダーとの共創が困難な状況下においても、このツールは、検討あるいは開発中のアイデアに対するフィードバックをMSPが得られるようにしてくれる。

市民陪審の参加者は、通常3～6日間招集されるため、さまざまな議論を呼ぶことの多いテーマを徹底的に検討することが可能となる。オープンな雰囲気づくりのため、市民陪審の参加者は、直接的なステークホルダーとして行動しなくてよいこととされている。市民陪審のための集まりは、議論の対象となる課題や入手可能な情報によっては、数週間から数か月にわたって開かれる場合もある。

自分たちの見解を形成する前に、専門家証人を招き、質問を行う機会が陪審員には与えられる。その間、追加的な専門家の招致や追加情報を陪審員は要求できるため、グループディスカッションとインタビューが繰り返される。何度か投票を行うことで、陪審員はパネラーとしての共通の見解を形成することができるようになる。



出典：MinnPost

市民陪審のファシリテーション法

市民陪審を成功に導くファシリテーションは、実際の会合の遙か以前から始まっている。

陪審員は通常12～20人のメンバーで構成され、コミュニティの視点を広く代表するよう、慎重に選ぶ必要がある。有権者からの選定しようとする場合、有権者以外のグループの視点が反映されるようにするため、追加的措置を講じることが推奨される。一般市民を実際に模した陪審員構成とするため、謝礼金やアクセスしやすいロケーション、育児施設などの提供を行うこともできる。

また、市民陪審の集まりが開かれている間は、プロセス全体を通じて、それがインクルーシブで公正なものとなるよう図ることが重要だ。ファシリテーターは、グループディスカッションと専門家インタビュー間の時間配分がうまくいくよう取り計らうなどして、プロセスを導くことができる。陪審員によりさまざまに異なる意見のすべてが確実に表明されるよう図るためにも、有能なファシリテーターの存在が非常に重要である。

監督のためのパネルは、通常、テーマとなる課題に関連した経歴を持つ外部のオブザーバーまたはステークホルダーの中から指名された者で構成される。さまざまなグループを代表するパネルの招集では、バランスが重要となる。これは、このパネルの指名が、プロセスの公正性と信頼性を担保するためのものだからである。監督パネルが直接ファシリテーションを行うことはないが、すべての結果の信頼性について批判的にチェックを行う。

市民陪審を、政策や意思決定に一般市民が真の意味で関わる強力な参加型ツールにするためには、陪審員の見解や提言に何が起きているかをモニタリングすることも重要となる。

Wakeford (2002) によれば、市民陪審についての現在の課題とは、特に現在、政治的プロセスから疎外されているグループを対象とした長期的取り組みに市民陪審を関わらせることにある。これを推進するため、初期段階から市民陪審をボトムアッププロセスにすることができるよう、草の根フォーラムなどの補完的ツールを用いることもできる。

さらに知りたい方は：

Environmental Mainstreaming Initiative (2009). Profiles of Tools and Tactics for Environmental Mainstreaming. No. 4. Citizen Jury:

[www.environmentalmainstreaming.org/documents/EM%20Profile%20No%204%20Citizen's%20Jury%20\(6%20Oct%2009\).pdf](http://www.environmentalmainstreaming.org/documents/EM%20Profile%20No%204%20Citizen's%20Jury%20(6%20Oct%2009).pdf)

The Jefferson Center (2004). Citizen Jury Handbook: www.epfound.ge/files/citizens_jury_handbook.pdf

The World Bank Social Development Department. Sourcebook: Citizen Jury:

www.worldbank.org/socialaccountability_sourcebook/Tools/Other/cj.html

Wakeford, T. (2002). Citizens Juries: a radical alternative for social research. Social Research Update. Issue 37: <http://sru.soc.surrey.ac.uk/SRU37.html>